

質問

琵琶湖は都の近くなので漁業が栄え続けたのも理解しやすいですが、需要がある状況が長く続いた中で、エリ漁というかたちが他のよりよい漁法に発展しなかったことに疑問を抱きました。古墳時代から1500年程度エリ漁が続いていることにはなりますが、工夫などはされなかったのでしょうか。同じ漁法を続けることで魚の乱獲を防ぐという目的があったのでしょうか。

質問への回答

世界農業遺産「琵琶湖システム」のホームページによれば「エリ漁は、琵琶湖を回遊する湖魚の生態や湖の水流を巧みに利用し、ツボと呼ばれる部分で捕獲する待ち受け型の漁法です。この漁法は、必要な量だけ漁獲でき、漁業者は限りある水産資源に配慮した漁を続けています。他にもヤナ漁や刺し網漁、オイサデ漁などが昔ながらの姿で現代に受け継がれています。」と説明されています。エリ漁が水産資源に配慮した漁法だということがわかります。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/biwako-system/history/#fishing>

質問

過疎化がすすんでいる所と学生がコラボしているとのことですが、実際困っている農村地域の人々たちの声はどうやって拾っているのでしょうか。デジタル格差で取り残され、声が届かず困っている村が沢山あるのではないのでしょうか。

質問への回答

最初は大学の教員が地域や自治体から相談を受け、その後、学生を連れていき、学生と共に地域の課題解決に取り組むというケースが多いと思います。農山漁村地域も必ずしもデジタルが使えない高齢者ばかりではありませんし、地域にニーズがあれば、自治体がサポートし専門家を紹介することも多いです。